



高松機械工業株式会社

[証券コード6155]

第55期 株主通信

平成27年4月1日から平成28年3月31日

Contents

- P. 1 株主の皆様へ
- P. 6 中期経営計画
- P. 7 トピックス
- P. 9 業績の推移
- P. 12 株式の状況
- P. 13 会社の概要



株主の皆様へ



トップに訊く——The President Talks

代表取締役社長

高松 喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第55期株主通信をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

第55期を振り返りますと、日本経済は、新興国を中心とした海外経済減速の影響や、個人消費の足踏みなど、一部に弱さがみられましたが、企業収益の改善を背景に設備投資が底堅く推移し、雇用・所得環境にも改善がみられたことで、緩やかな回復基調が続いてきました。

工作機械業界でも、海外経済の減速等から外需が主要3極（北米、ヨーロッパ、アジア）すべてで前年同期に比べて減少となる一方で、補助金効果等から内需が一般機械、自動車、電機・精密等の主要業種でリーマンショック以降の最高額を更新しました。この結果、平成27年度の業界受注総額は過去4番目の高水準となる1兆3,989億円（前年同期比11.4%減）と、総じて高い需要が継続しました。

当社グループでも、アジアを中心として外需が減少したものの業績は堅調に推移し、第55期の連結売上高は188億22百万円となりました。前期よりも8億4百万円の増収となり、2期連続で過去最高売上高を更新しました。

第56期の当社グループを取り巻く事業環境につきましては、新興国・資源国経済の低迷や原油価格の下落等、海外経済の先行きに懸念材料がありますが、国内では企業収益の改善により設備投資意欲が持続し、生産性向上設備投資促進税制や中小企業に対する固定資産税軽減制度、ものづくり補助金といった政策の後押しも期待されることから、需要は底堅く推移すると見込まれます。

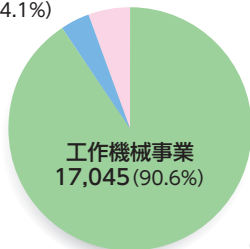
このような見通しの中、不透明感はありますが、今期も工作機械事業を中心に、国内外の需要の確保や生産性向上に努めることによって事業規模の拡大をはかり、過去最高売上高の更新と利益の拡大を目指します。

また当社グループは、今期を初年度とする「中期計画2018」を策定しました。売上高の成長と収益性の改善を志向し、環境や市場の変化に対応した戦略の推進によって企業価値の向上をはかっていきます。更にその先においても持続的成長を成し遂げていく企業であり続けるよう、企業努力を怠らず邁進していく所存でありますので、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■セグメント別売上高構成比

IT関連製造
装置事業
763(4.1%)

自動車部品加工事業
1,014(5.4%)



(単位：百万円)



平成28年4月に開催されたSIMTOS2016(韓国)

Q.

第55期の総括をお願いします。

A.

第55期は売上高が188億22百万円(前年同期比4.5%増)となり、前期に引き続き過去最高の売上高を更新することができました。

これは、主力である工作機械事業の売上高が堅調に推移したことによります。海外経済減速の影響等によって、特にアジア向け売上高が減少しましたが、高水準の受注残を抱えていたことに加え、国内向け売上高が大きく伸長しました。

利益につきましても、売上高の増加やコスト削減の成果によって、営業利益が17億41百万円(同28.5%増)、経常利益が17億96百万円(同23.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益が12億25百万円(同30.8%増)と大きく増加し、2期連続の増収増益となりました。

Q.

セグメント別に詳しく状況を教えてください。

A.

当社グループでは、主に中・小型CNC旋盤の製造、販売およびサービス・メンテナンスを行っている「工作機械事業」、半導体や液晶等の製造ラインに使われる製品のOEM生産を行っている「IT関連製造装置事業」、主に自社製旋盤を利用して自動車部品等の加工・一部組付を行っている「自動車部品加工事業」の3つを展開しています。

①工作機械事業

第55期の業績は、受注高128億56百万円(前年同期比11.7%減)、受注残高48億62百万円(同30.8%減)、売上高170億45百万円(同3.9%増)、営業利益17億70百万円(同28.6%増)であります。受注高および受注残高は減少しましたが、増収増益となりました。

業績に大きな影響を与えたのは、中国を始めとしたアジア向け売上高の減少と、国内向け売上高の増加であります。今期の外需比率は36.0%となり、前期の45.0%から大きく減少しました。

アジアの国では、特に中国、タイ、ベトナム、インドネシア



新設した門型平面研削盤



新設した横型マシニングセンタ

において、それぞれの国独自の要因や景気減速による設備投資の伸び悩みから、前期よりも需要が減少しました。

このような状況でありましたが、特に新興国市場は中長期的に拡大が見込まれることから、グローバルサービス体制強化のために、新規ディーラの開拓や新拠点開設の検討、国内外拠点間の連携強化等を進めてきました。また、現地での知名度向上と受注確保のため、各子会社でプライベート・ショーを実施しました。

一方国内では、生産性向上に貢献するソリューションを提案することで需要掘り起こしをはかったほか、主要ディーラやユーザとの関係強化に努めてきました。また、約2年ぶりに本社工場にて新製品発表展示会を開催しました。

これら取り組みに加え、企業収益の改善等から自動車関連の大手ユーザを中心として設備投資計画が持続していたことで、前期と同水準の国内受注がありました。

生産面では、生産能力増強のため、門型平面研削盤や横型マシニングセンタ等の導入といった設備投資と、設計・製造部門への人員の投入を行うとともに、作業の効率化や生産体制の見直しによるコストの削減に取り組んできました。

製品面では、省スペースと高生産性を両立させた

「XW-60」、回転工具を装着し加工バリエーションを充実させた「XW-60M」、高い加工精度と作業者の操作性向上を実現した「XG-4」、特殊な加工方法を採用し加工品質を高めるとともに大幅な工程集約を可能とした先進機「SKV-8」の4機種を新たに発表しました。

②IT関連製造装置事業

第55期の業績は、売上高7億63百万円（前年同期比5.9%減）、営業利益3百万円（前年同期は4百万円の営業損失）であります。

半導体および液晶市場での設備需要が堅調さを維持する中で、生産対応や新規開拓による売上高の確保に努めました。また、リードタイムの短縮や粗利管理の徹底による収益性の改善に取り組んだ結果、黒字化を達成しました。

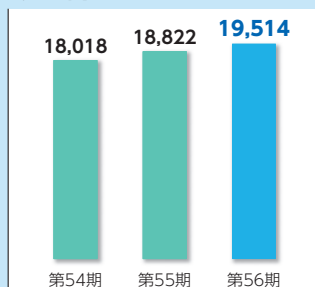
③自動車部品加工事業

第55期の業績は、売上高10億14百万円（前年同期比25.5%増）、営業損失26百万円（前年同期は17百万円の営業損失）であります。

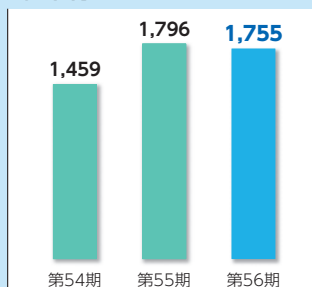
国内自動車産業の好業績を受けて高い需要が継続する中で、生産体制の強化、新規受注の獲得や新規顧客の開拓、生産合理化に取り組みました。

■第56期の連結業績見込み（単位:百万円）

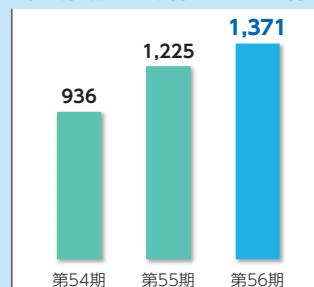
●売上高



●経常利益



●親会社株主に帰属する当期純利益



大きく売上高を増加することができた一方で、新たな生産ラインの構築に係る費用や、タイの連結子会社の立ち上げに係る費用が利益を押し下げました。

Q.

第56期の見通しはいかがですか。

A.

日本経済の先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待されます。ただし、海外経済で弱さがみられていることから、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、日本の景気が下押しされるリスクがあります。

工作機械業界は、国内では老朽化設備の更新やものづくり補助金等による政策の後押しがあり、海外では北米需要が回復する見込みから、需要は底堅く推移するとみられています。そのため、日本工作機械工業会では、平成28年暦年業界受注総額見込として、平成27年に達成できなかった1兆5,500億円を再度目標として掲げています。

このような環境から、第56期の業績予想は、連結売上高が

195億14百万円、営業利益が16億92百万円、経常利益が17億55百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が13億71百万円としています。売上高は前期を若干上回りますが、将来の成長に向けて従業員の増員や設備投資を継続して行ってきたことで固定費が増加しており、営業利益・経常利益では前期を下回る見通しであります。

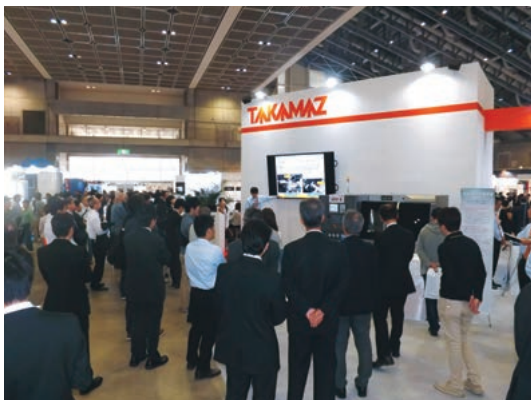
セグメント別では、工作機械事業売上高が175億86百万円、IT関連製造装置事業売上高が9億円、自動車部品加工事業売上高が10億27百万円と、すべての事業で増収を見込んでいます。

Q.

新中期経営計画について教えてください。

A.

当社グループは、平成28年度を初年度とする3か年の新中期経営計画「中期計画2018」を策定し、スタートしました。「中期計画2018」においては経営規模の成長および収益性の改善を重視し、平成30年度の目標として、連結売上高、連結営業利益率、連結ROE等を設定しています。その目標の達成にむけて、策定した階層別の戦略を



MEX金沢2016に展示した新製品「SKV-8」の説明に集まる来場者



TPMP(タイ)で行っている自動車部品加工の作業風景

着実に推進していきます(具体的な目標値および戦略につきましては、6ページをご参照ください)。

全社戦略として、引き続き工作機械、IT関連製造装置、自動車部品加工の3事業を展開しますが、工作機械事業に重点を置き、将来の成長に向けた種蒔きとして、現有の経営資源を活用しつつ、ロボットエンジニアリング等の新規事業の育成に取り組めます。

事業別戦略として、工作機械事業では、当社グループの特色であるソリューション提案型の営業活動の強化をはかります。また、海外での営業ネットワーク拡充の一環として、メキシコおよびベトナムに販売子会社を設立します。製品面では、高付加価値製品の開発を進めます。強みとする自動化技術を伸ばすとともに、近年の技術的な環境変化を受けて、IoT、Industry4.0に関連するコア技術の研究開発を推進します。生産面では、品質の向上とコストの削減、需要変動に柔軟に対応可能な生産体制の構築に取り組めます。

IT関連製造装置事業では、継続的な収益性の改善を課題とし、新規顧客開拓に向けた市場調査や、開発情報の早期入手等による既存取引先との関係強化に取り組めます。

自動車部品加工事業では、将来の事業規模拡大と収益性

の改善を課題とし、新たな顧客獲得、事業規模の拡大を通じたスケールメリットの追求に取り組めます。

最後に、株主の皆様への還元について教えてください。

A. 第55期の業績は期初の業績予想を下回ったものの、過去最高売上高の更新と大幅な増収を達成したことで、配当については期初予定通りの中間配当6円、期末配当12円の年間18円を実施させていただきました。

第56期の業績は、先行きの見通しに不透明感があるものの、前期を上回ることを見込んでいますので、配当については中間配当7円、期末配当13円の年間20円とし、2円の増配を予定しています。

今後も、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するために必要な内部留保を行いつつ、安定的な配当水準を維持していく方針であります。

株主の皆様のご期待に添えるような会社であるべく今後も精進してまいりますので、当社を末長くご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

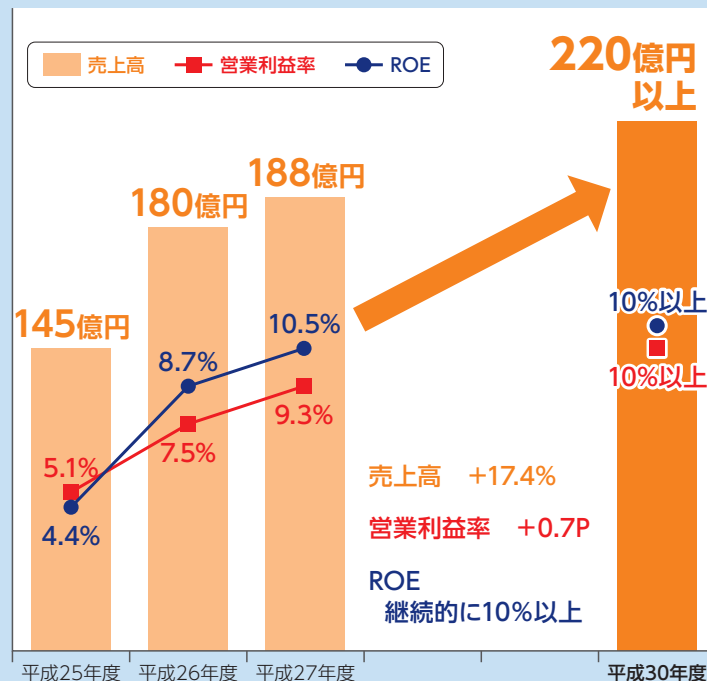
特集 =中期経営計画のご紹介=

中期計画2018がスタートしました

当社グループは、平成28年度を初年度とする3か年の新中期経営計画を策定しました。企業価値の向上をはかるために経営規模の成長および収益性の改善を重視し、中期計画2018で掲げる戦略を推進していきます。

平成30年度 連結経営数値目標

売上高	220億円以上
営業利益率	10.0%以上
ROE	10.0%以上



全社戦略

- 引き続き工作機械、IT関連製造装置、自動車部品加工の3事業を展開
- 工作機械セグメント内でロボットエンジニアリング等の新規事業の育成に取り組む
- 資源配分はコアビジネスである工作機械事業に重点的に実施

事業・機能別戦略

工作機械事業

- ①国内需要の確保
- ②海外展開の推進
- ③営業活動の改善と効率化
- ④付加価値のある製品の開発
- ⑤生産体制の合理化

IT関連製造装置事業

- ①新規取引先の開拓
- ②営業力の強化

自動車部品加工事業

- ①新規取引先の開拓
- ②生産能力の増強

コーポレート機能

- ①人材育成の強化と人事制度の改善
- ②ITの活用

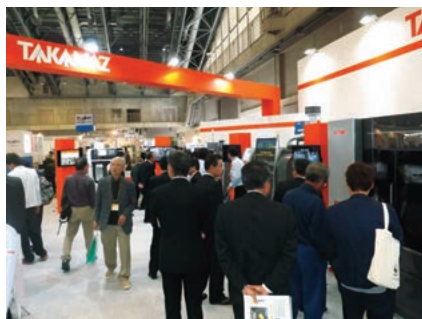
トピックス

MEX金沢2016に出展しました

北陸地区最大級の機械工業見本市であるMEX金沢2016(平成28年5月19日～21日)に出展しました。第54回を迎えました今年は200以上の企業・団体等が出展し、3日間の合計来場者数が57,296人(主催者発表)に達するなど活況を呈しました。

当社は新製品である「SKV-8」「XG-4」、新型コンパクトローダーと新たな熱変異補正システムを搭載した「X-100」など、全6機種を展示しました。展示機の中でも、旋盤と違う加工を行うレーザー加工装置を搭載した「XY-120 PLUS」では、デモ加工や技術者の解説に人だかりができるなど、来場者の関心を引きました。

このような付加価値の高い製品をPRし、多くの引合・受注をいただくことができました。



全国ディーラ会議

当社では毎年、日頃お世話になっている主要ディーラの皆様にお集まりいただき、全国ディーラ会議を開催しています。当社からは当期方針、新製品、今後の開発計画などを説明し、ディーラ様からは市場ニーズ・ユーザーニーズの情報提供、要望などをいただいています。

今回の会議ではディーラ様22社30名、当社37名の総勢67名が出席し、活発な意見交換を行った後、今期の業績達成に向けてお互いの協力を約束して閉会しました。



タカマツマシナリータイランドが本社移転

このたび、タイの販売子会社タカマツマシナリータイランドは、業務拡大に伴い本社を移転し、平成28年4月4日より新本社で営業を開始しています。

タイは自動車産業が盛んな国であり、今後も重要な市場と見込んでいますので、社員一同心機一転さらに一層精励し、ユーザの期待に応えていきます。



地域清掃活動

当社の本社所在地である白山市では、美化運動の推進と美化意識の高揚をはかるための市民総参加による清掃活動を推進しています。当社もこの活動に共感し、社会貢献活動の一環として本社工場周辺の清掃活動を行い、美しいまちづくりに協力しています。



個人投資家様向け会社説明会

当社は個人投資家の皆様を対象に、当社への理解促進と個人株主層の拡大を目指して会社説明会を実施しています。平成27年12月8日には石川県金沢市で開催された大和インベスター・リレーションズ株式会社が主催する個人投資家様向け会社説明会に参加しました。

説明会では、高松社長から当社の歴史や強み、現在の経営戦略等についてわかりやすく説明させていただきました。



熊本地震復興支援

このたびの熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

当社では、一日でも早い被災地の復興および被災者の救済を願い、一般社団法人 石川県鉄工機電協会を通じて義援金を寄付させていただきました。

また、設備機械の新規導入やメンテナンスを必要とするユーザ様への迅速・適切な対応を通じて、現地経済の復興をご支援させていただきます。

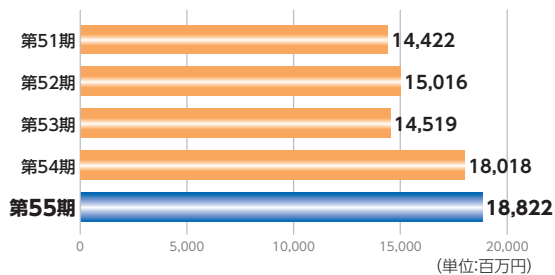
業績の推移

連結業績ハイライト

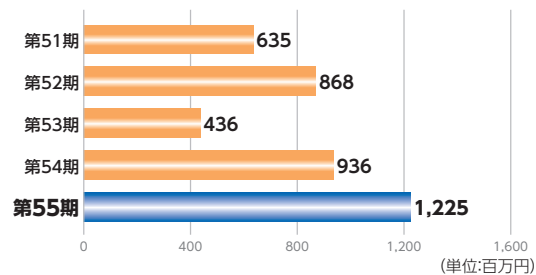
科 目		第51期 (平成23年度)	第52期 (平成24年度)	第53期 (平成25年度)	第54期 (平成26年度)	第55期 (平成27年度)
売上高	(百万円)	14,422	15,016	14,519	18,018	18,822
営業利益	(百万円)	988	1,079	737	1,354	1,741
経常利益	(百万円)	1,086	1,243	905	1,459	1,796
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	635	868	436	936	1,225
純資産額	(百万円)	8,739	9,560	10,241	11,303	12,008
総資産額	(百万円)	15,791	16,499	17,845	19,574	20,323
1株当たり当期純利益	(円)	59.16	79.75	40.08	85.37	111.51
1株当たり純資産額	(円)	799.32	876.40	937.99	1,026.89	1,090.63

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

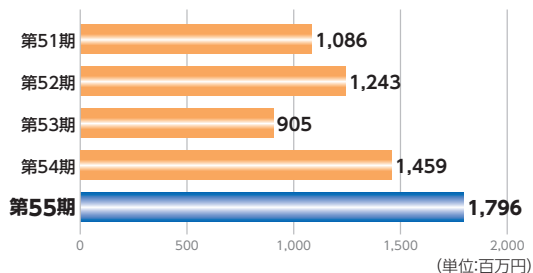
●売上高



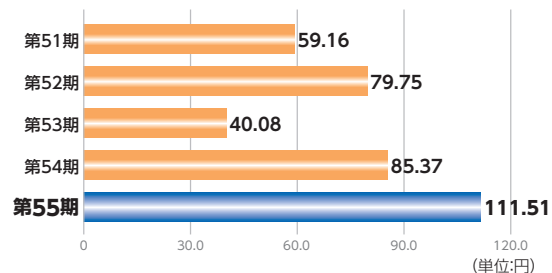
●親会社株主に帰属する当期純利益



●経常利益



●1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	13,172	13,725
現金及び預金	3,875	3,427
受取手形及び売掛金	5,459	5,812
電子記録債権	829	1,355
商品及び製品	468	717
仕掛品	1,231	1,066
原材料及び貯蔵品	945	984
繰延税金資産	299	308
その他	76	68
貸倒引当金	△ 12	△ 14
固定資産	6,401	6,597
有形固定資産	4,717	5,010
建物及び構築物	1,520	1,469
機械装置及び運搬具	759	822
工具、器具及び備品	123	117
土地	2,287	2,282
リース資産	19	12
建設仮勘定	7	305
無形固定資産	158	111
リース資産	156	111
電話加入権	1	0
投資その他の資産	1,525	1,475
投資有価証券	1,340	1,269
保険積立金	149	156
その他	70	83
貸倒引当金	△ 34	△ 34
資産合計	19,574	20,323

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	6,559	6,690
支払手形及び買掛金	3,664	1,957
電子記録債務	518	2,266
短期借入金	948	858
リース債務	55	52
未払法人税等	338	339
賞与引当金	185	210
役員賞与引当金	37	39
製品保証引当金	55	64
その他	755	902
固定負債	1,710	1,623
長期借入金	731	512
リース債務	103	51
役員退職慰労引当金	370	395
退職給付に係る負債	392	662
繰延税金負債	112	1
その他	0	0
負債合計	8,270	8,314
(純資産の部)		
株主資本	10,521	11,571
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,818	1,818
利益剰余金	6,879	7,929
自己株式	△ 11	△ 11
その他の包括利益累計額	765	416
その他有価証券評価差額金	175	160
繰延ヘッジ損益	0	－
為替換算調整勘定	450	343
退職給付に係る調整累計額	140	△ 87
非支配株主持分	16	21
純資産合計	11,303	12,008
負債純資産合計	19,574	20,323

連結財務諸表

連結損益計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月 1 日 至 平成28年3月31日)
売上高	18,018	18,822
売上原価	13,549	13,829
売上総利益	4,469	4,993
販売費及び一般管理費	3,114	3,251
営業利益	1,354	1,741
営業外収益	126	84
営業外費用	21	28
経常利益	1,459	1,796
特別利益	4	0
特別損失	0	5
税金等調整前当期純利益	1,464	1,791
法人税、住民税及び事業税	510	577
法人税等調整額	16	△ 5
当期純利益	937	1,218
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	0	△ 6
親会社株主に帰属する当期純利益	936	1,225

(注) 各計算書において、記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月 1 日 至 平成28年3月31日)
当期純利益	937	1,218
その他の包括利益	312	△ 352
その他有価証券評価差額金	46	△ 14
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 0
為替換算調整勘定	119	△ 71
退職給付に係る調整額	69	△ 227
持分法適用会社に対する持分相当額	76	△ 38
包括利益	1,249	866
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,248	876
非支配株主に係る包括利益	0	△ 9

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月 1 日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	625	707
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 411	△ 83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 356	△ 525
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	△ 40
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 79	57
現金及び現金同等物の期首残高	2,442	2,362
現金及び現金同等物の期末残高	2,362	2,420

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

株式の状況

①発行可能株式総数

②発行済株式総数

③1単元の株式数

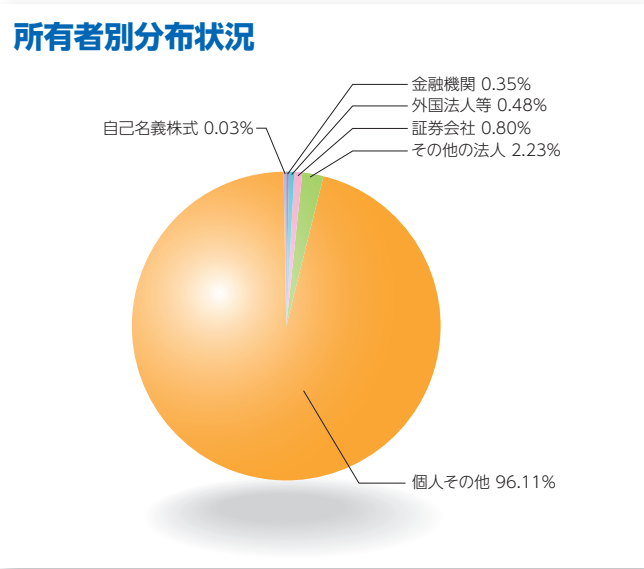
④株主数

30,000,000 株

11,020,000 株

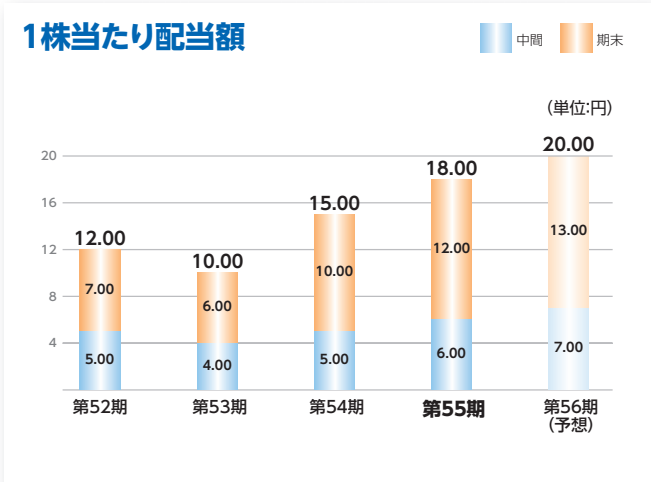
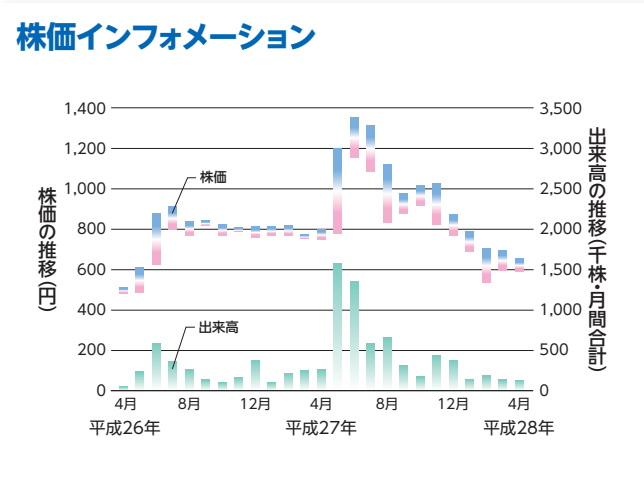
100 株

3,138 名



大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社タカマツ	810	7.35
高松機械工業取引先持株会	809	7.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	531	4.82
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
日本生命保険相互会社	384	3.48
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	382	3.47
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松機械工業社員持株会	348	3.16
株式会社朝日電機製作所	340	3.09



会社の概要 (平成28年3月31日現在)

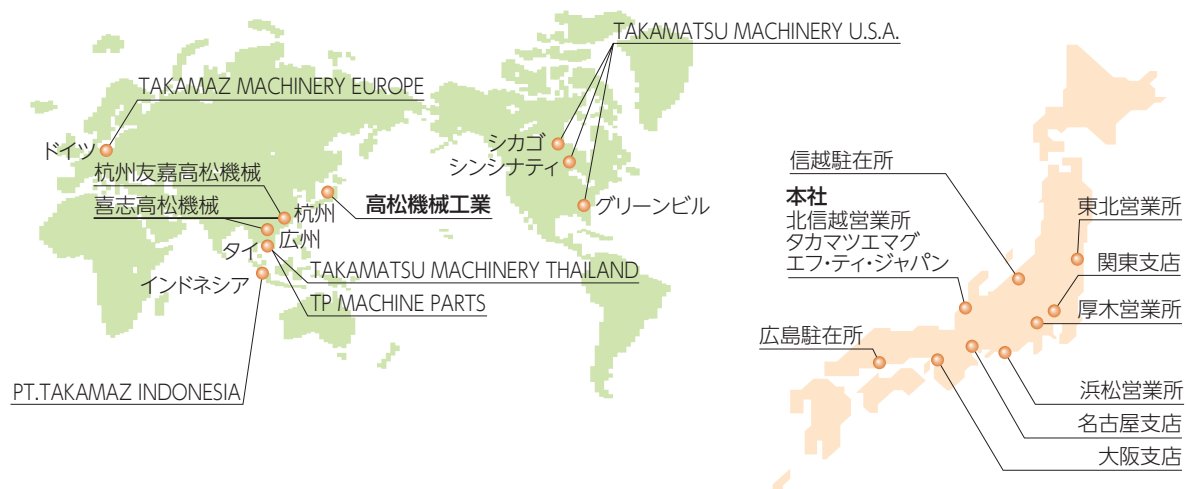
会社概要

商号 高松機械工業株式会社
 設立 昭和36年7月
 資本金 18億3,539万円
 本社 石川県白山市旭丘1丁目8番地
 従業員数 487名
 子会社および関連会社 TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC.
 TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD.
 TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH
 喜志高松機械(杭州)有限公司
 PT.TAKAMAZ INDONESIA
 TP MACHINE PARTS CO., LTD.
 株式会社タカマツエマグ
 杭州友嘉高松機械有限公司
 株式会社エフ・ティ・ジャパン
 ホームページアドレス <http://www.takamaz.co.jp>

役員 (平成28年6月28日現在)

代表取締役社長	高松喜与志
代表取締役副社長	高松宗一郎
専務取締役	前田充夫
専務取締役	中西与平
常務取締役	溝口清
取締役	徳野穰
取締役	磯部稔
取締役	村田俊哉
取締役	四十万尚
取締役(社外)	中西祐一
取締役(社外)	石原多賀子
常勤監査役	池上佳信
監査役(社外)	鍛冶敏弘
監査役(社外)	杖村修司

ネットワークとサービス体制



ホームページのご案内

当社のホームページでは、株主の皆様により当社をご理解いただくために
会社情報をはじめ、IR情報や製品情報などさまざまな情報を配信しております。
ぜひご覧ください。



IR情報



高松機械工業がどんな
会社なのか、わかりや
すくご紹介しています。

過去4年間の業績および
今期の業績予想はこちら
から。

TAKAMAZ

検索



ホームページトップ
<http://www.takamaz.co.jp>

事業所



本社工場(工作機械事業)



本社工場 航空写真



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW XW-60M (表紙掲載機種)

省スペースと高生産性を両立させた「XW-60」に回転工具を装着し、加工バリエーションを充実させました。

「XW-60」とともに、お客様から高い注目を浴びています。



NEW SKV-8

特殊な加工方法（スカイビング加工）を採用し、多品種少量生産に対応がしやすく、作業時間の短縮や工程集約も可能とします。

当社が蓄積してきたノウハウを基に作り上げたスペシャルマシンです。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページ <http://www.takamaz.co.jp>



このパンフレットは再生紙を使用しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

